

竹 原 市 収 受	
竹 原 第	号
- 7. 3. 18	
処理期限	月 日
分類記号	保存年限

資料様式第3号

議 長	副議長	局 長	係 長	局 員
				

令和 7 年 3 月 18 日

議員(視察・調査・研修)結果報告書

議員氏名 川 本 円



視察・調査 場 所	・豊島区とレマ区民センター ・銀座ソニーパーク
期 日	令和 7 年 2 月 10 日 ~ 令和 7 年 2 月 11 日
経 費	66,930 66,600 円
参加者氏名	川 本 円
視察・調査 目 的	・適切な議員定数の決定手法・議員報酬を考慮 ・半導体による音楽の地層空間公園体験
内 容 (視察先の 現状、竹原 市との比較 等)	別紙
効果・成果 等	別紙 ・3年間の工事期間を経て、半導体による音楽の地層 空間公園は床に搭載した振動デバイスが映像 や音楽に合わせ震えるユニットも体験。

※ 実施後1ヶ月以内に報告する。

「適正な議員定数の算定手法を考える」

R2・2・10（月）

（株）廣瀬行政研究所 廣瀬和彦

議員定数については、法的根拠として「地方自治^法第90・91条」都道府県・市町村議会の議員の定数は、条例で定めるとされているが、平成の大合併（H11～H22）で一時的に市区の議員数が増加し^た時期がありましたが、それ以降は、徐々に議員数・定数ともに減少に転じており、多くの議会において議員定数や報酬について、議論されることがふえてきていると言える。

しかしながら、議員選挙での投票率は、総務省のデータによると昭和26年の91.02%をピークに下がり続け、令和5年では、43.93%まで落ち込んでいる。又、選挙における意識調査では、棄権理由として「選挙にあまり、関心がない」「政策や人物の違いが分からない」「適当な候補者がいない」という理由が大半を占めており、本当に市民の信任を得たのかが、疑われるとも言える。

更に、地方議会に特に多くみられるケースとして、議員のなり手不足が、問題となっており原因の一員としては、「人口減」「議員報酬」「議員構成する兼業」「性別の隔たり」などがあげられるが、いずれにしても年齢別の状況からみても、若者の参入にかなり厳しいものといえる。

多くの議会は、定数と人口を反映されるべきとして、人口比例方式を採用するケースが多くなっているが、議員定数を削減した場合において、その後に検証の実施をされたのか、又、その効果はどうであったのかを議会として、話し合うことがあったのかが問題とされる。

単に、人口に比例して定数を定めることが、本当に民意を反映しているものなのかが問われている。

議員定数^と

と経費の関係（議会費）では、定数削減することにより、経費の削減も見込まれると言われていることがあるが、市議会の活動に関する実態調査結果（R5年）によると、人口段階別の5万人未満においては、一般会計当初予算額に占める議会費の割合は、0.8%^にしかすぎず、削減による財政状況の改善には、統計上繋がらないと言っても良いといえる。

いずれにしても、議員定数を^の改正を何故行うのか、明確な目的・効果を提示したうえで、議論をする必要性を十分認識し、取り掛かることが、大切である。